

N.O. 361
令和3年7月号

隣る（となる） 人になつて

校長 今枝武司

今、「隣る人」という言葉があるそうです。いつもべったりくつついているのではなく、かといって突き放すわけでもわく、いい距離感を保ちながら、子ども達を見守り、寄り添い続ける人のことです。我々、教職員は「隣る人」にならなければならないと思います。保護者の方々も「隣る人」になつて子ども達を育ててみえると思います。

さて、「1学期の「生活アンケート」を取りました。残念ながら「いじめられた」と訴えた生徒が数名いました。相手生徒にも話を聞き指導し、保護者の方にも連絡しました。いじめられていると訴えた子の気持ちを思うと、さぞ辛かっただろうと申し訳ない気持ちでいっぱいです。いじめられていると感じている子ども達に必要なのは、気が抜ける場所や、まさしく「隣る人」の存在です。あれこれと言わず、傷口にはふれないで何でもないこと話をして笑ってくれる人がそばにいるだけで救われると思います。でも、それだけでは根本的には解決しません。

いじめがどうして起きるのか考えてみると、自分と意見が違う子を認めることができないことから発するのではないかでしょうか。まずは、人は自分とは違うということを理解し、違うことを認め合うことこそが大切なことです。

今、生徒会が中心となつて学校のまりについてゼロベースから検討しています。三年間笑顔で生活するために必要なルールを決めようとしています。でも、絶対に無くしてはならないルールは『自分がされて嫌なことは、人にしない、言わない』ことです。

いじめ防止対策推進法では「いじめとは、他の生徒が行う心理的・物理的な影響を与える行為であり、対象となつた生徒が心身の苦痛を感じているもの」と定義されています。何気ない一言や悪口など小さいと感じられるものでも、受けた本人が傷つき精神的苦痛を感じたのであれば、いじめなのです。しかし、生徒達はいじめの事実をなかなか周りには言えないのが実情です。中学生は心の成長過程にあり、自分で何とかしようとする自立心が芽生えています。「親にも心配かけたくない」という思いも相まって相談できないことが多いのです。だから、今回、いじめを訴えてくれた数名の生徒の勇気は立派です。いじめ撲滅のため、全校で徹底的に取り組みましょう。

全国大会出場

「感謝」

アーチェリー部

僕は静岡で行われたアーチェリーの全国大会に出場した。大会中に自己ベストを出し、満足のいく対戦もでき、ベスト十六入りもできた。自分の力を出し切り、大会を楽しめて貴重な経験となつた。

しかし、一年前はまさか自分が全国大会に出られるとは思っていなかつた。その時期にアーチェリーに打ち込んで努力をしたから今があるとも思うが、それだけでなく、僕は運や環境に恵まれていたと思う。

昨年はコロナで全国大会は中止だった。また、周りの人のサポートがかつたら、僕は大会に出場できなかつたと思う。応援してくれた友達や先生、家族、コーチや先輩には感謝の気持ちでいっぱいだ。

この夏で僕は部活動を引退するけれど、後輩にはぜひ全国大会を目指し

てほしいと思う。それに僕は、感謝の気持ちを忘れずに、勉強や他の面でも頑張っていきたい。

アーチェリーで得たもの

アーチェリー部

コロナによつて部活動ができない時、家で毎日近射と筋トレをしていました。

部活で練習で走るようになると、全日本に向けて龍北運動場で六十mの練習をしました。

しかし、全国大会前最後の記録会は緊急事態宣言で、愛知県では中止になつてしましました。三十二名の枠を目指して他の県でがんばっている人がいると思うとあせる毎日でした。でも、今までの記録の積み重ねで、全日本大会に行けることが決まりました。

一年間、コロナで練習や大会などができず、悔しい思いをしましたが、この貴重なチャンスを楽しもうと決めました。全日本大会初日は緊張しましたが経験したことのない空気感を味わい楽しかったです。

この全国大会で得た経験は、これらの生活の自信になりました。

校外学習・遠足

輝く未来へ前進!

三年二組

僕たち三年生の学年テーマは「前進」です。本来三年生は遠足がありますが、修学旅行の延期もあり、遠足に行けることになりました。行き先はのんほいパーク（豊橋市総合動植物公園）でした。

僕が一番心に残つたことは、「のんほいパークミッショント」で、班員全員が協力してミッショントを達成したことです。普段、あまり話すことが少ないクラスの仲間とも協力できることで、クラスの絆が深まつたと思います。

このクラスの絆が今年一年間持続するだけではなく、むしろ「前進」できるようにしたいと思いました。

社会見学で学んだこと

二年一組

私が実行委員に立候補した理由は、コロナ禍で制限がかかっている中でも皆の心に残るような企画を作りたいと思ったからです。

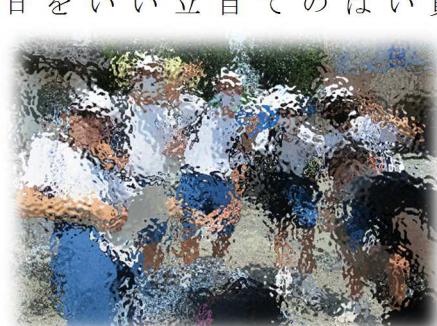
実行委員をやつていぐ中で、はじめは他の人についていけず「自分は役に立つていいのではないか」と頭を悩ませる日



六年二十九日に遠足があつた。コロナで行事が中止になつていたので、遠足に行けたことがとてもうれしかった。だが、僕には班長としての仕事があった。整列や報告など小さなことのように感じるが僕は、大切な仕事であると考えた。また、これ以外にも僕には、やらなきやいけないことがあつた。それは何よりも班員を盛り上げることだ。そのため、できる限りのことを行つた。そして、班員が楽しそうにしていたことがうれしかつた。

学年での遠足の目的がある。それは次の行動につなげることだ。文化祭や修学旅行など、これから行事につなげていきたい。

六月二十九日に遠足があつた。コロナで行事が中止になつていたので、遠足に行けたことがとてもうれしかつた。だが、僕には班長としての仕事があった。整列や報告など小さなことのように感じるが僕は、大切な仕事であると考えた。また、これ以外にも僕には、やらなきやいけないことがあつた。それは何よりも班員を盛り上げることだ。そのため、できる限りのことを行つた。そして、班員が楽しそうにしていたことがうれしかつた。



もありました。でも、リトルワールドで皆が「○○先生いた!」、「このクイズってここ?」と楽しそうにチャレンジしているのを見て、一生懸命企画してよかったです。

社会見学を通して私は、チームで味わう楽しさを改めて深く感じました。なので、これを生かしてこの先の行事も協力して全力でエンジョイしていきたいです!

班長として 二年四組

僕は班の全員が楽しめるように、一つのことを心がけました。それは、班のメンバー全員の意見を取り入れることです。例えば、民族衣装で何を着るか、昼食はどこで食べるかなどとの話し合いの中で、自己中心的な意見が出てこないように気をつけました。

当時は、見学場所や見学にかける時間を考えて行動しました。実行委員から出た、ミッショントモ班で協力して全て解くことができました。一日中、班員が笑顔で過ごすことができてよかったです。

班長として心がけたことは、これからも、周りの人を楽しませることに挑戦していきたいです。

校内アラカルト

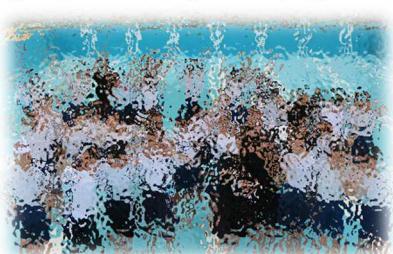
ギネスに挑戦

六月二十五日、期末テスト終了後の四時間目に生徒会主催「ギネスに挑戦」と題して全校レク大会を行いました。挑戦種目は『ピンポン球グラス入れ』と『連続的当て紙飛行機』の二種目です。なかなか難しい種目でしたがが、クラスで協力して楽しんでいました。



れていきました。
楽しみながらも
真剣に掃除して
くれました。

七月五日から始まつた水泳の授業の準備をボランティアとして支えてくれました。本当にありがとうございました。



東海中総体

総体を含む、各種大会の延期や中止にもめげず、部活動に精一杯励んでいる生徒たちを教職員で応援する目的で今年度初めての試みの『東海中総体』を行いました。

東海中総体と言つても、生徒対教職員の試合がメインです。実戦不足解消と生徒のモチベーションの持続、生徒と教職員のふれあいも目的にしていました。各部の希望を聞き、十の部が参加してくれました。やつてみたいといふ部が予想以上に多く、教職員に自分たちの活動を見てもらいたいといふ気持ちが強いことがわかりました。

試合に参加せずとも応援だけでも生徒の励みになると駆けつけた教職員も多く、やつてよかったです。

文化部からも吹奏楽部や文化教養部の参加もありました。生演奏を聴いたり、一緒に活動をしたりしました。真剣な中にもプレーごとにガッツポーズが出たり、歓声がこだましたり、笑顔がはじけました。教職員チームも大人げないと思いつつも、けがに注意しながら、負けるものかと本気でプレーしましたが、生徒は若いしよく動きます。教職員チームは惨敗でした。しかし、生徒たちには新鮮だったようで、「意外に先生たち動けるね」、「なかなかやるじやん」という声が聞こえてきそうでした。教職員にとっても、生徒の違つた一面が見られたり、普段あまり接する機会のない他学年の生徒とふれあえたりと有意義な時間でした。

コロナ禍で全てのことができないわけではありません。コロナ禍だからこそできるもの、気づくこともきっとあります。東海中総体はコロナ禍で總体が中止になつたことで、実現しました。コロナ禍ではなかつたら、今回のような新鮮な発見や感動はできなかつたかもしません。



プール清掃ボランティア

昨年度は実施できませんでしたが、今年度は水泳の授業を行うことができます。六月二十六日に土曜日にもかかわらず、体育委員会と三年生のボランティア隊の総勢三十八名がプール清掃を行つてくれました。

二年ぶりのプール清掃で、かなり汚

各大会結果

【全日本中学生アーチェリー大会】

六十mラウンド

ベスト十六

ベスト三十二

【市長杯総合体育大会】

団体の部

ベスト8 女子剣道部

対矢北 二一二代表戦で勝利

対幸田北部 二一三惜敗

(西三河大会出場決定)

個人の部

優勝 男子陸上部

砲丸投げ

女子陸上部

一〇〇m

第三位 女子陸上部

一〇〇mH

四×一〇〇mリレー



各部の健闘

野球部

対六美

○一二惜敗

第九位

一一四惜敗

男子バスケットボール部 対矢北 三七一四七惜敗
女子バスケットボール部 対龍南 一〇一八九惜敗
ソフトテニス部 対常磐 一一二惜敗

男子剣道部 対城北 一一四惜敗
対龍南 一〇一八九惜敗

女子バドミントン選手権大会



【中部日本吹奏楽コンクール】

第五位（銀賞）

西三河北地区大会 吹奏楽部

第三位

男子バレーボール部

対幸田

一一二惜敗

女子バドミントン選手権大会

西三河バドミントン選手権大会

第五位

女子バドミントン選手権大会

西三河バドミントン選手権大会



やまとなみ 教育随想

最後の夏

三年主任 稲吉 晃一

現在岡崎市市長杯が開かれている。コロナ禍で、今まで十分に公式試合が行えなかつた種目もあると聞く。私が顧問をしているバレー部も、新規活動以来の公式試合となる。チームによつては二年と数か月の間、部活動を頑張ってきて、公式試合が二試合で引退を迎える可能性があるという厳しい現実。そういう状況下だからこそ、部活動の戦績以外に、どのような力を身に付けたか、人としてどのような成長を遂げたのか、何に気付けるようになったのか、生徒一人ひとりを見つめ、しつかりと価値づけてあげたいと強く思う。

先日、廊下を歩いていると、願いを込めた短冊がつるされているのを目撲した。偶然バレー部の生徒が書いた短冊だった。そこには「少しでも長く仲間とバレーができますように」と書いてあつた。彼女ならその願いをかなえるために、もう一回り成長する。その彼女を見守つてみたい。

表彰の記録

【西三河中学校陸上競技選手権大会】

第三十二回上田三四二記念

「小野市短歌フオーラム」

優秀賞

「ともだちと遊ぶ約束受けたり行く
いういっやつはたいてい来ない」

第二十五回「藤川宿を詠む」俳句

岡崎市教育委員会賞

(以上四名県大会出場決定)

【全日本通信陸上競技愛知県大会】

第四位

一〇〇m

第七位

二〇〇m

第九位

一〇〇mH

野球部

対六美

○一二惜敗

卓球部

対葵

一一四惜敗

藤川の歴史と共に麦育つ